

第1回 第5次那覇市総合計画の中間検証及び見直しに係る市民意見交換会

1 日時 令和4年10月15日（土）14:00～17:00

2 場所 那覇市役所 本庁舎 10階会議室

3 参加者 14名

（内訳） なは市民協働大学院受講生（令和4年度） 3名

なは市民協働大学院受講生（令和元年度以前） 5名

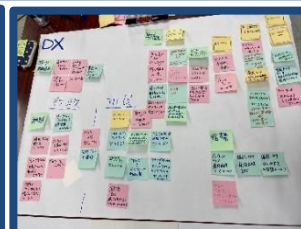
その他（校区まちづくり協議会、自治会など） 6名

4 ワークショップのテーマ

(1) with コロナ・after コロナへの対応（感染症対応関連・経済観光関連）

(2) デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

(3) カーボンニュートラル（脱炭素化）の実現



5 主な意見

(1) with コロナ・after コロナへの対応（感染症対応関連） ……【施策 20】

（現状と課題）

- ・ コロナ禍が明け始めている今、「ニューノーマル（新たな日常）」について再考が必要。
- ・ 医療機関における入院患者への面会禁止により、最期の看取りができない。
- ・ これまで市が行った新型コロナウイルス感染症対策への取組みについての振り返り、第7波までの総括が必要。
- ・ 誰を守るのか、取組みの対象を明確にする必要がある。
- ・ ワクチン接種率はどうだったのか。若者は低かったのか。
- ・ ワクチン弱者（高齢者や外国人など予約申請が難しい方）への対応が必要。
- ・ 市民一人ひとりの情報の認識に差が出ないように、適切な情報提供が必要。
- ・ 国、県、自治体の取組みがそれぞれあって分かりづらい。
- ・ ワクチン接種やマスク着用ができない人を許容する。
- ・ マスクが生活に与える影響（特に子ども。友達ができない→不登校）。
- ・ マスクの着用ができない子どもに温かな配慮があってほしい。
- ・ マスクをどうしたらはずせるか。
- ・ コロナの影響は医療、経済（観光）、福祉、教育など、多分野にまたがる。

（取組み）

- ・ 感染拡大した場合に備えた保健所の対応策の構築。
- ・ 保健所業務について外部委託やDXを活用し、業務の効率化を図る。
- ・ 感染拡大した場合は、より流動的な人員配置を行い適正な人員を確保する。
- ・ 変異株や感染拡大に迅速に対応できるような体制、仕組みづくり。
- ・ 変異株の特徴に合わせた対応策の実施。
- ・ ワクチン接種のタイミング等、国の取組との整合性をとる。
- ・ 那覇市独自のスタンダードを考える。
- ・ 最新の緩和対策、ワクチン接種やマスク着用等に関する情報の発信。
- ・ テレビやラジオ媒体の活用した情報の発信（地域版）。
- ・ 外国人に分かりやすい言語や内容で伝える情報の発信。
- ・ マスク着用ができないことを知らせる「バッジ」等の作成。
- ・ コロナ対策に関する指標の設定。
- ・ コロナ以外の感染症（HIV、梅毒、性感染症等）についても対策を進めてほしい（啓蒙、中高生への教育など）。
- ・ 感染症についての研究、研修機関の設置。
- ・ 休業や廃業となったホテルや病院を療養所として活用する。
- ・ 感染後の安心感（空床、ホテルの確保）
- ・ 高齢者施設や介護する方たちの給与や待遇改善。

(1) with コロナ・after コロナへの対応（経済観光関連） ……【施策 30】

(現状と課題)

- ・「ニューノーマル（新たな日常）」について再考が必要。
- ・那覇市内はホテルが多いため、療養所としての活用に期待ができる。

(取組み)

- ・那覇市観光危機管理計画に新型コロナウイルス感染症対策を追加。
- ・指標に観光客の満足度を追加。
- ・観光業の回復に向けて公助による支援が必要。
- ・那覇市と医師会の連携（アドバイザー設置等）が必要。
- ・観光業に携わる方達の優先的なワクチン接種。
- ・観光業に携わる方達の給与面や保証を考慮してほしい。
- ・沖縄県独自のコロナ対策を行ってもよいのではないか。
- ・外国人対応策。
- ・観光客の増減に左右されない水際対策を行うべき。
- ・観光客への事前の情報提供。
- ・PCR 検査を受けた方向けの情報提供。
- ・観光の在り方についての再考（夜中まで大騒ぎだけが観光？）。
- ・主要場所への接続や各移動手段利用の促進。
- ・観光客向けポータルサイトの強化。
- ・DXを活用した情報提供。
- ・公園のトイレの整備。
- ・波の上ビーチの整備。
- ・観光エリアと居住エリアの区分。

(2) デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進 ……【施策 57, 58】

(現状と課題)

- ・市民は市役所のデジタル化を望んでいるのか？
- ・市役所の開庁時間に行けないため、デジタル化を進めて休日や夜間に手続きができるようにしてほしい。
- ・スマホ・パソコンを持っていない、使いこなせない人を取り残さないようなサポートが必要。
- ・市民が使いやすいデジタルツールの活用。
- ・高齢者 DX（デジタル化に対応できるのか？LINE など使いやすいツールを活用する。）
- ・利便性の向上と合わせたセキュリティ対策が課題。
- ・公のデジタルセキュリティの融通がきかない。
- ・アナログ、デジタルのメリットやデメリット、リスクなどの丁寧な説明が必要。
- ・庁内全体での連携が必要（デジタル化の横ぐしがつながっているか）。

(取組み)

- ・デジタル市役所の実現（市役所に行かずに手続きができるように）。
- ・利用する市民が多い部門から、優先順位をつけて IT 化を進めた方がよい。
- ・メールでの申請受付をしてほしい。
- ・申請窓口の待ち時間を減らしてほしい。
- ・窓口担当職員の意見を基に申請手続きの DX 化を進める。
- ・行政手続きを一元管理するスーパーアプリを開発する。
- ・ブロックチェーンを活用したセキュリティ対策。
- ・デジタル手続きに特化した窓口を設置する。
- ・スマホやパソコンを持っていない人を対象にした専用窓口の設置。
- ・アナログ、デジタルの混在による分かりにくさを解決するための手続きフローマップの作成。
- ・デジタルリテラシーの格差を是正する取組みづくり。
- ・市民へのデジタル講座を開催する。
- ・市役所業務のペーパーレス化の目標設定が必要。
- ・会議資料、配布資料のペーパーレス化を進める（QR コード化）。
- ・オープンデータを積極的に進める（データはエクセル形式）。
- ・検索しやすいウェブサイトの運営。
- ・申請書類への押印が不要となったのは良い。
- ・指標 129、130 の最終目標値の見直し。
- ・ホームページの使いやすさに関する指標の設定。

(3) カーボンニュートラル（脱炭素化）の実現 ……【 施策 41 】

(現状と課題)

- ・脱炭素化への取組みは、強制（義務）なのか、任意なのか。
- ・ゼロカーボンシティ宣言の表明はするべき。
- ・ゼロカーボンシティ宣言をし、具体的に目指す変化も示す。
- ・部門別の排出削減目標の明示があると目指しやすい。
- ・個人のライフスタイル任せで目標達成できるのか。
- ・個人の理解度や意識の高さに差がある（市民意識調査に回答する人はそもそも意識が高い）。
- ・我慢を強いる生活ではなく、ポジティブに取り組みたくなる仕組みが必要。

(取組み)

- ・ライフスタイルが変わるような社会制度の制定。
- ・新しい税制度をつくる。
- ・CO₂ 排出減でポイント付与をする制度の制定。
- ・省エネの日を設定して電力の使用を控えてもらう。
- ・木を植える。みどりのカーテン事業。

- ・エコ補助金（ソーラー、車、自転車）の支給。
- ・太陽光パネルの設置義務化。
- ・住宅の省エネ化。
- ・ライフスタイル別に具体的な取組みの提案があるといい。
- ・クールビズ。学生服が暑い。
- ・取り組んだことで現れた成果や変化が見える化できるとモチベーションアップに繋がる。
- ・取組みをした子どもの表彰（例：那覇市グレタ表彰）。
- ・子どもへの環境教育の推進。さらに、子どもから大人・親へ伝わる環境教育。
- ・消灯時間を 24 時に決める。
- ・車での送迎をやめる。
- ・バスをコンパクトにし、路線を多くする。
- ・モビリティの多様化を進める。
- ・年齢や身体能力や移動手段にかかわらず、誰にでも使いやすい「コンプリートストリート」を目指す。

以上